

6.10 廃棄物等

6.10.1 予測

(1) 予測概要

工事の実施に伴う廃棄物等の発生量について、現時点で想定される工事をもとに予測を行った。予測は、建設工事や解体工事に伴い発生する産業廃棄物量、発生土量の程度を想定し、定性的に行った。

表 6.10-1 予測概要

予測項目	産業廃棄物・発生土
予測範囲	事業計画地
予測時期	工事の実施時
予測方法	定性予測

(2) 予測内容及び結果

造成等の工事、万博開催期間終了後の解体工事に伴う、産業廃棄物の発生量、建設残土の発生量について、定性的に予測を行った。

事業計画地の大部分は、現在敷設されているアスファルト舗装を活用するため、舗装に伴う掘削残土はほとんど発生しないが、第1案と第3案では、海とのふれあい広場（芝生広場）の一部を砂利舗装とする予定であるため、整地や万博開催期間終了後の撤去に伴い残土が発生する。第2案と第3案は、駐車場の一部を立体構造とするため、基礎工事に伴う掘削残土が発生するとともに、万博開催期間終了後の撤去時に構造体や基礎等の産業廃棄物が発生する。

そのため、平面案である第1案は、立体案と比べ、産業廃棄物等の発生による環境への影響が小さいと予測される。2階3段構造である第2案は、平面案の第1案、1階2段構造の第3案と比べ、造成等の工事、撤去に伴う産業廃棄物や残土が多くなり、環境への影響の程度は最も大きくなると評価する。

6.10.2 評価

事業実施に伴い発生する廃棄物量や発生土量の程度に基づく評価を行った。

表 6.10-2 廃棄物等の評価結果

	第1案	第2案	第3案
工事の実施時	海とのふれあい広場（芝生広場）の一部を砂利舗装とすることにより、建設時や撤去時に残土が発生するが、大部分は現況のアスファルト舗装をそのまま活用するため、駐車場の整備、撤去に伴う、産業廃棄物や残土による環境への影響の程度は最も小さいと評価する。	立体案のため、基礎の掘削残土が発生するとともに、万博開催期間終了後の解体工事で構造体や基礎等の産業廃棄物が発生する。2階3段構造となるため、平面案の第1案、1階2段構造の第3案と比べ、造成等の工事、撤去に伴う産業廃棄物や残土による環境への影響の程度は最も大きくなる」と評価する。	立体案のため、基礎の掘削残土が発生するとともに、万博開催期間終了後の解体工事で構造体や基礎等の産業廃棄物が発生する。1階2段構造となるため、造成等の工事、撤去に伴う産業廃棄物や残土による環境への影響の程度は、平面案の第1案より大きく、2階3段構造の第2案より小さくなると評価する。
	◎	△	○

凡例：◎ 他案と比較して環境影響は最も軽微である又は対策を実施すれば環境影響を大幅に低減できる。

○ 他案と比較して環境影響は軽微である又は対策を実施すれば環境影響を軽減できる。

△ 他案と比較して環境影響が大きい又は対策を実施しても環境影響の低減が困難である。

また、事業による廃棄物等の影響低減の観点から、工事の実施時において以下の環境配慮を検討する。

- ・建設発生材の減量化や建設リサイクル法に基づく再資源化等の適切な処理の実施